

## 木材利用に係る環境貢献度の「見える化」検討会について

## 1 趣旨

木材は、再生可能でカーボンニュートラルな資源であるとともに加工等に必要なエネルギーも低い「環境に優しい」資材であり、その利用を通じて「低炭素社会」の構築に大きく貢献することが可能である。

このような他の材料には見られない特性を生かし、木材、とりわけ国産材の利用に係る省CO<sub>2</sub>効果などの環境貢献を、具体的な数値データをもって評価し、広く国民に普及すること（「見える化」）が、木材の需要拡大の観点からも重要である。

このため、以下によって「見える化」についての検討を行う。

## 2 検討事項

## (1) 想定される「見える化」の手法（第1回・2回検討会）

- ・木材の特性等を活かした「見える化」の手法
- ・カーボンフットプリント制度など関連の動きとの関係

## (2) 「見える化」の導入にあたっての課題整理（第2回・3回検討会）

- ・評価範囲の考え方（例：廃棄やリサイクルをどう考慮するか）
- ・評価の単位（例：木造住宅を部材ごとにどこまで細分化するか）
- ・同一原料（原木）から多種の製品が生産される場合の取り扱い
- ・評価を行うに当たって、必要とするデータの収集方法

## (3) 「見える化」の普及手法（第3回検討会）

- ・消費者に伝えるべき情報と分かりやすい表示方法

## (4) 上記の検討を踏まえた「見える化」の基本方針（第4回）

## 3 スケジュール

第1回検討会	9月22日
第2回検討会	10月下旬
第3回検討会	12月
第4回検討会	2月

※ 本検討会での検討結果を適宜、食農審・林政審・水政審地球環境小委員会合同会議で行っている農林水産分野における省CO<sub>2</sub>効果の「見える化」の検討にフィードバックする。